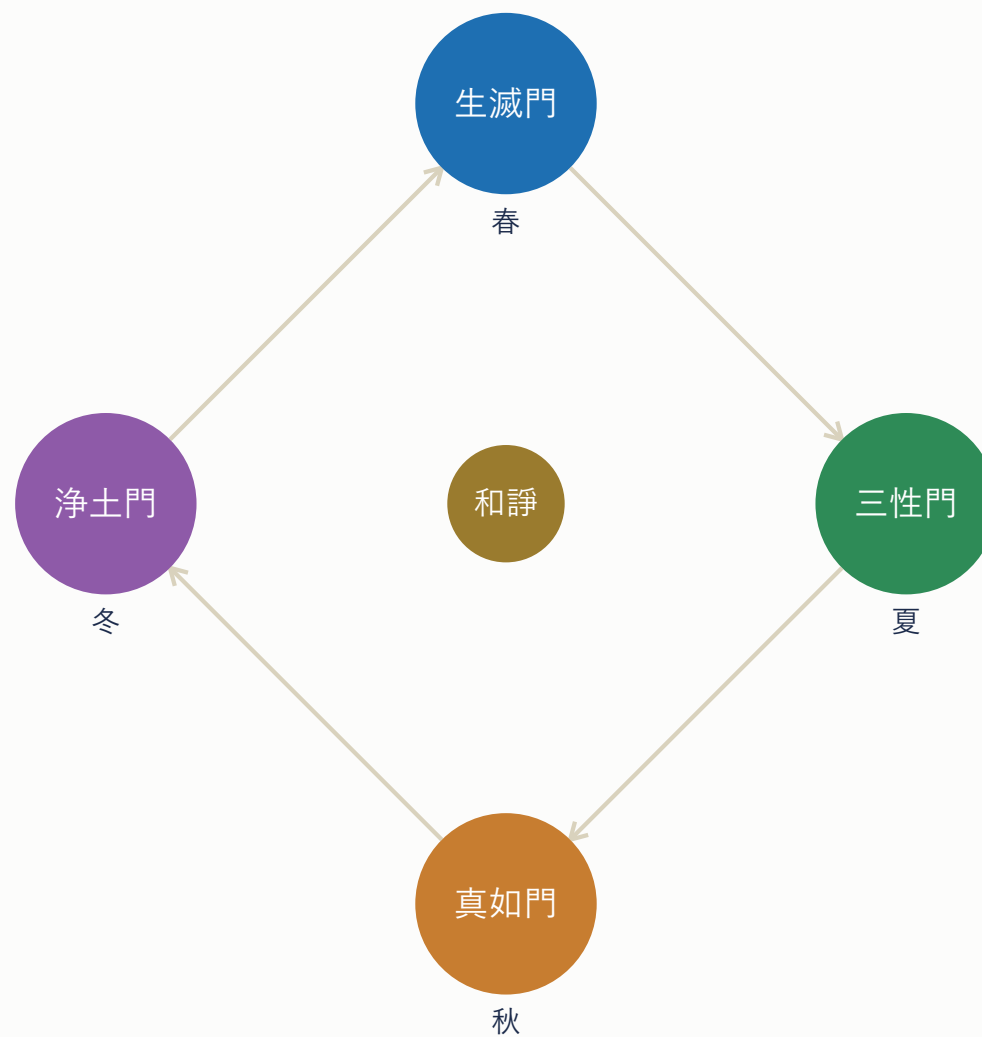





8. 元暁の和諍理論と相生經濟の原理

四門和諍 ↔ 四季循環



和諍理論と四つの経済理論

- 十門和諍論 = 部分的真理の統合
- 二項・三項・四項が相関的思惟に対応
- 四経済理論が四門和諍に対応

器と起で見た経済的和諍

- 器（制度）と起（創造エネルギー）
- 自由・効率・公正・連帯の四大エンジン
- 相互補完で対立を解消

要点

和諍の拡大と相生経済

- 現代経済は春に埋没し冬を喪失
- 循環的に統合する和諍経済学
- 一心経済＝相生経済への転換

要点

世界宗教の和諍

- アブラハム三宗教への適用
- 本質を共有し現象で衝突
- 一つの大洋へ流れる水流

比較

8. 元暁の和諍理論と相生經濟の原理

思想	核心原理	四門	季節	哲学的核心
功利主義	最大多数の最大幸福（効率）	生滅門	春	種子の自律的な起（起）——個別の生命力の噴出
共同体主義	共有された価値と社会的紐帯	三性門	夏	器世間（器）の効率的拡張——現象的豊かさの極大化
社会契約主義	合理的手続きと公正な合意	真如門	秋	公正な規則への寂滅——普遍的秩序と理
自由至上主義	個人の絶対的所有権と自由	浄土門	冬	「われわれ」という大きな器の起信（信）——根源的紐帯と一心

8. 元暁の和諍理論と相生経済の原理

宗教	和諍の季節	核心的強調点	和諍の役割
ユダヤ教	春（法の始まり）	契約と律法の厳格さ（器世間の規則）	共同体秩序の始点
キリスト教	夏（愛の拡張）	信仰と普遍的愛（法器の拡散）	愛のエネルギーを極大化
イスラム教	秋（絶対的服従）	唯一神への完全な献身（寂滅への帰依）	本質への帰還を促す